

北泉通の高野川架橋工事はストップを

耐震化が急がれる橋が多数ある中、この「新しい橋」は必要なのでしょうか。

京都市が高野川に新しい橋をかけようとしていることをご存知でしょうか。高野川の馬橋と人道橋の間に14億円の総事業費で架橋しようとしています。

京都市は「区役所への交通アクセスをよくするため」の事業と説明します。ところが、「**（橋ができて）バスを通す予定はない**」とのこと。区役所が交通不便でこまっている人には何の恩恵もありません。

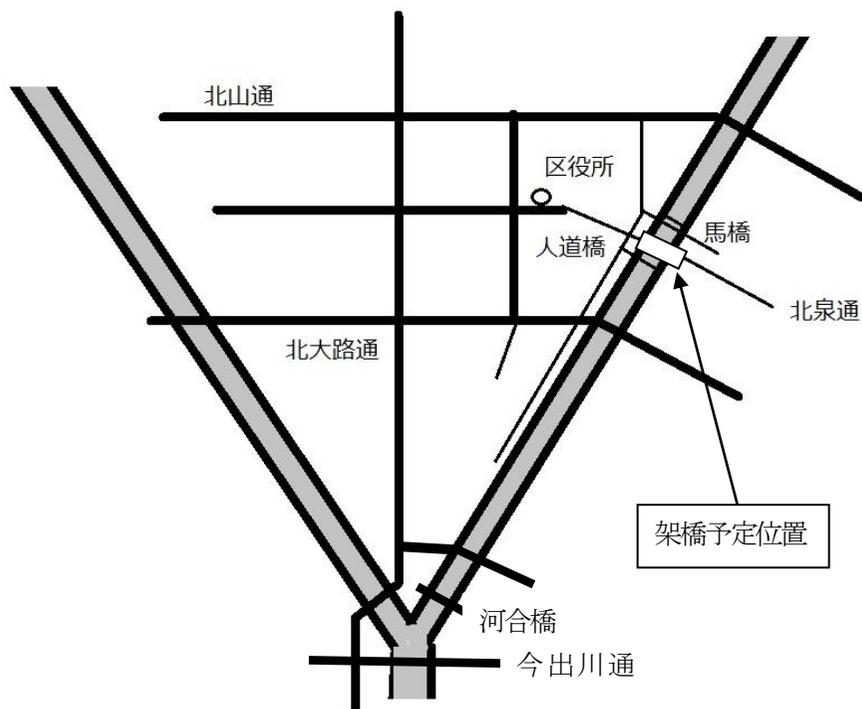
防災のためとも強調しますが、市の防災計画からいけば、区内各所への分散備蓄と既存の橋の耐震化・老朽化対策こそ急がれます。松ヶ崎橋、馬橋など耐震工事に着手できていない橋りょうが市内に多数残されています。老朽化と歩道の狭さが問題となっている河合橋（出町柳駅前）は、市議会が全会一致で請願採択（2013年9月）したにもかかわらず、「予算がない」との理由で改修工事の予定すらできていません。

その他にも問題が山積

- ☆今回の工事は昭和2年の都市計画決定通りではありません。
- ☆道路幅に伴う住民の追い出し
- ☆川端通の桜並木伐採による環境破壊など
- ・・・たくさんの方が残されています。

北泉通の架橋工事は中止し、まずは地域のみなさんとの協議を行うこと、住民が望む事業を優先的に行うことこそ必要です

下鴨本通



1366人もの多数の市民が監査請求

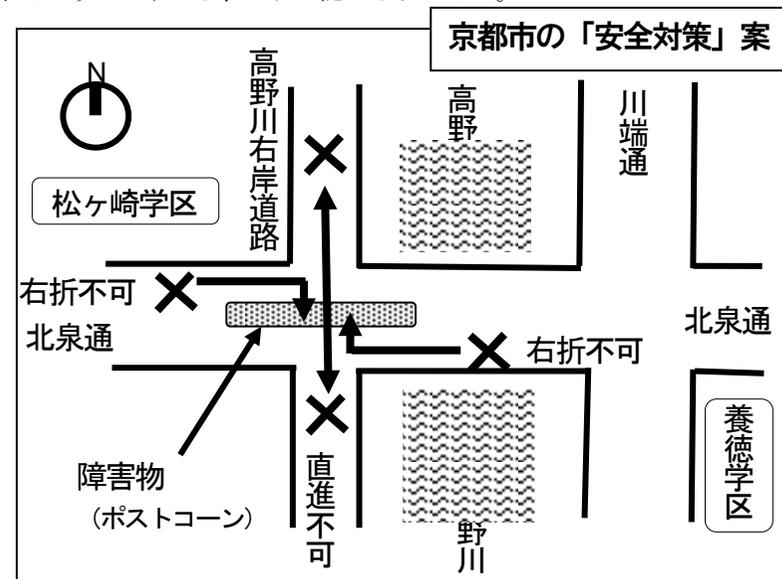
北泉通の工事（京都工芸繊維大学～川端通）はやめるべきとの、京都市への監査請求に、1,366人の方が名前を連ねました。残念ながら請求は棄却されましたが、これだけ多数の方が、明確な反対意思を示したことを京都市は重く受け止める必要があります。

地元に危険と不便を押し付けてよいのか？

昨年10月と11月に行われた「工事説明会」では、北泉通の交通量が松ヶ崎でも養徳でも現在の数倍に増えるということで、周辺地域のみなさんから、「**今でもこの地域は交通量が多くて危険なのに、通学や児童館の子どもをはじめ、住民の安全がさらにおびやかされる**」と、不安の声が次々と出されました。

京都市は「安全対策」として、高野川右岸道路の南北方向の通行を遮断する方策を提示しました。これは、北泉通と右岸道路の交差点において、北泉通の中央線に障害物（ポストコーン）を設置し、物理的に北と南の車の通行を分断するというものです。このことで、北泉通から右折で右岸道路へ進入することもできなくなります（下図参照）。

「これでは、巨額の税金を使うのに、付近の住民が不便になるではないか」との声に、京都市は、「**地元の利便性にデメリットが生じることは認識している**」と、**驚くべき説明**。周辺住民に危険と不便を押し付けることが前提の架橋工事というのですから、これは認められません。



あなたのご意見やご要望をお聞かせください。
日本共産党左京地区委員会
Tel761-6341 / fax761-6345